

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	災害看護学				
担 当 者	立垣 祐子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.7	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>授業の質向上のために「学生による授業評価調査」にご協力いただきありがとうございました。評価については、この授業でよいと思った点には12件のご意見をいただきました。今年度から新たに取り組みました第1回授業において全回の資料を配布することについて、評価をいただいたことは個人的に嬉しかったです。「分かりやすい」、「国試のポイントを押さえている」等が評価されていました。このような点には履修生の皆さんの意向も反映されていると思うので今後も継続していきます。なお、改善すべき点についてのご意見はありませんでした。災害看護学はどのような臨床でも必要なことです。明日の臨床で看護に役立てていただけると嬉しいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	精神援助論				
担 当 者	江口実希				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.5	4.5	4.5	4.5	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>公平性担保のため実技試験評価項目(10項目)を事前に示し評価しております。採点結果を個々に説明における時間が一人当たり3分程度となってしまう、次回は可能な限り採点結果の説明時間を確保できるように工夫したいと思います。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	臨床検査総論				
担 当 者	溝越祐志, 砂見愛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.6	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>8 回分の講義お疲れ様でした。臨床検査に関する授業内容はいかがでしたでしょうか。皆さんにとっては専門外であり、馴染みがない分野に少し戸惑ったかもしれません。患者さんをケアするため、実技だけでなく人の心理面など、多岐にわたる分野を修得しなければならない皆様は大変であり偉大だと、看護学科のシラバスを眺めながら感じていました。そのような皆様にとって、今回の分野は主軸を置くようなものではないと思います。ただ、もし余裕がある場合は、患者さんの症状が体内のどのような変化の結果起きているかを考えるようにしてみてください。体内の変化を考える力がつけば、患者さんをケアするうえでもとても役に立つと思います。</p> <p>「心電図の説明がすごくわかりやすくて、理解することができました。」「講義がわかりやすく苦手な部分でも取り組めた」というコメントをいただきました。今年から心電図含め生理機能検査学の分野は新しい先生にご担当いただき、新体制で講義を進めてきました。今後も両教員ども、資料のブラッシュアップに努め、よりわかりやすい授業を展開できるように精進したいと思います。</p> <p>検査値というものは、知識として知るだけでなく、その知識を利用、応用して病態を考えて初めて有用なものとして使われるものと考えます。検査値から病態を推察することはとても難しいことと思いますが、仕事をしていくうえで、看護師がその力を持っていると、他の人と比べて大きなアドバンテージになると思います。ぜひこの授業の単位のための知識ではなく、働くうえでの知識として、今後検査値の意味を頭に定着していただけると嬉しいです。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	母性援助論				
担 当 者	伊東 美智子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.7	4.1	3.8	4.4	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>2023 年度 母性援助論への受講評価を有難うございました。</p> <p>グループワークのあり方、manaba の使い方、課題の出すタイミングと量など、具体的に問題点をご指摘くださり、有難うございました。上記を含めて、母性援助論に“嫌悪感”まで抱いた学生さんがおられたことに、心よりお詫びを申し上げると同時に責任を感じております。あるいは、今回の評価には書いておられずとも、何らかの不满を本科目に対して感じられた方へは、科目責任者の伊東に全ての責任があります。至らぬことばかりで、申し訳ありませんでした。母性看護学だからこそ感じていただけるはずの、母子と家族が持つ生命力や存在の尊さを本講義で伝えきれなかったことに対して、心よりお詫びを申し上げます。</p> <p>それでも、皆さんが多くの学外学習にしっかりと取り組み、学びを深めてくださったことに感謝をいたします。</p> <p>そして、皆さんのために 4 年生が講義や演習を準備してくれましたが、「分かりやすくて身に着いた」と書いてくださった方がおられたことは、大きな救いでした。必ず、担当してくださった 4 年生に伝えます。</p> <p>皆さんがご指摘くださったご意見を少しでも活かせるよう、島内先生や問本先生のお知恵も今年以上に拝借しながら、今から準備してゆきたいと思います。</p> <p>最後にもう一度、至らぬ「母性援助論」の講義でしかなく、本当に申し訳ありませんでした。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	基本看護技術Ⅲ（フィジカルアセスメント）				
担 当 者	藤原 桜、十九百君子 柴田しおり、中村由果理、武士由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.5	4.5	4.4	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をありがとうございました。回収率は43.6%でした。</p> <p>本科目の評価点数は、すべてのカテゴリーで学科平均を上回りました。これは、皆さんが真摯に参加し、良いフィードバックを提供してくれたおかげで、私たち教員も皆さんの成長に貢献できたことを示しています。協同でより良い授業を実現できたと思います。</p> <p>特に、皆さんが「授業以外の時間」に費やした努力は、学科平均の3.19を大きく上回りました。これは、皆さんが科目の学修目標を達成するために、どれだけ努力したかを示しています。そして、その努力の成果は、アセスメント内容の向上として見られました。私たち教員は、皆さんの成長を非常に喜んでいきます。</p> <p>フィジカルアセスメントは、解剖生理の知識をもとに患者を全体的に観察する力、そして、確実な診察技術とアセスメント力が要求されるハイレベルな科目です。このスキルは、将来多くの患者の回復に貢献するでしょう。フィジカルアセスメントのスキルに自信がない方も、遅くはありません。私たち教員はいつでも皆さんを支援する準備をしています。気軽に研究室にお越しください。</p> <p>また、教員の授業資料に対する提案も頂きました。次年度からは、皆様の意見を参考にして、より良い授業を提供したいと考えています。</p> <p>最後になりましたが、真摯に授業に取り組んでくれた皆さんに感謝しています。また、皆さんとの授業はとても楽しかったです。ありがとうございました。</p> <p>文責 藤原 桜</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	看護解剖生理学 I				
担 当 者	塩谷英之				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.5	4.5	4.2	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>概ね良好な評価を得ました。独自で作成した動画の後に説明を加えるといった方法がわかりやすいとのことでしたのでこの方式を次年度も継続します。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	看護解剖生理学Ⅱ				
担 当 者	塩谷英之				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.4	4.5	4.1	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>概ね良好な評価を得ました。最初に動画を見せ、その後ポイントを説明する方法が好評でしたので次年度もこの形式で行いたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	症候論 I				
担 当 者	塩谷英之				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.4	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>概ね良好な評価を得ましたが、説明について難しい症候についてはもう少し時間をかけて説明しようと思います。</p>					



## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	看護学概論				
担 当 者	尾崎雅子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4	4.5	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>カテゴリー別評価では学科平均よりやや高い結果でした。これは皆さんの学修の達成感のあらわれではないかと思います。</p> <p>「看護学概論」は看護の専門分野科目で、看護学の基本に位置します。今までみなさんが考えていた看護について、授業を受けられて変わりましたか？同じだったでしょうか。毎回出していただく授業の意見からは、その都度皆さんが考えたこと、質問などがあり、毎回読ませていただくことで、直接ではありませんが一人一人からの考えを聞かせていただいているようで楽しかったです。皆さんが看護についてもっと知りたい、やってみようと思っただけならば、担当者としては嬉しく思います。皆さんが目指す看護（看護師）は医療専門職の一員です。看護は何を目的として、どんな人たちに、何を行うことなのか、これから各授業で学んでいかれることとなりますので、「あ、1年の時に学んだことだ」と看護学概論のテキストやノートなどを開いていただくと、今以上により理解できるようになっていると思います。</p> <p>先ほども述べたように看護は専門職です。その分は果たすべき責任もありますので、これからは興味・関心でとどまっていはいけません。看護は答えが一つではありません。学修したことを活用できるように、暗記するだけでなく、自分はどう考えるのか、問いかけてください。授業後のまとめも学修方法の一つとしてこれからも継続してください。そして、4年後の自分がどうなっているのか、目指したい看護を探究してください。</p> <p>今回の授業評価は85%と高い回答率でした。授業評価にご協力いただきありがとうございます。今後もより良い授業を目指していきますので、授業評価へのご協力をよろしくお願いいたします。（文責：尾崎）</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	公衆衛生看護展開論 I				
担 当 者	伊東愛				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.8	4.6	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>回答率が46%と半数以下であったため、履修者全員の意見でないことが残念ですが、学生自身の学習時間が少ないことが課題だと捉えました。本科目は演習との抱き合わせで進行している科目であり、講義で学んだものを演習で実践する形を取っています。自己学習時間がかなり多い、抱き合わせの演習科目との平均値は、学科平均以上の学習時間になっていますので、学生負担を考えると現状維持が妥当かと考えます。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	基本看護技術Ⅳ（看護過程）				
担 当 者	尾崎雅子、黒野利佐子、中村由香理				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.3	4.3	4.5	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>カテゴリー別評価では学科平均に比べると変わりませんが、Ⅰ学生自身とⅣ学習成果が高い結果でした。これは皆さんの努力と達成感のあらわれではないかと思います。私たち人間は日々問題に立ち向かい解決しようと思しながら生きている存在です。それを看護専門職の活動にいかそうとするのが看護過程です。問題解決者としての人間像にあった、『強力伝』の小宮、『蒼茫』のなつ、『二十四の瞳』の子どもたちのように、対処の仕方は人それぞれです。しかし、看護過程においては自分にとって有益であるかどうかではなく、専門職としての目的とは何かを忘れてはいけません。紙上事例を用いた演習では患者さんの状況を分析し、看護計画を立案しました。患者さんを捉えるには多くの知識が必要です。難しい内容であったと思いますが、皆さんの学習への取り組みが成果としてあらわれ、基本的な知識や看護者としての考え方をすることに成長を感じられていると思いました。また、グループワークを行って、お互い助け合いながら理解を深めていけたことは良かったと思います。ただ、グループワークの難しさもあったと思います。授業評価の意見からはメンバーの決め方や進め方も今後は工夫が必要かなと思いました。また教員ごとの対応の違いも課題となりました。次年度に向けてより良く改善できるよう検討していきたいと思っています。皆さん自身も課題への取り組みがどうであったか、今後に活かせるように振り返りをしてください。本科目は9月の基礎看護学実習と関連ある科目ですから、臨地での体験を通してより深められたことと思います。また3年次にある各援助論や臨地実習においても深められるとことでしょう。看護の視点とは何か、看護過程は何のためにあるのか、この間を持ちながら、看護専門職を目指して頑張ってください。</p> <p>今回の授業評価は全体で約53%の回答率で、やや少なかったのが残念でしたが、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後もより良い授業を目指していきますので、授業評価へのご協力をよろしくお願いします。(文責：尾崎)</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	公衆衛生看護展開論演習 I				
担 当 者	伊東愛				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.5	4.5	4.4	4.7	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>回答率が 38.5%と半数以下であったため、履修者全員の意見でないことが残念ですが、演習時間内における分かりやすい説明が課題であると捉えました。複数教員で担当していることから、教員間連携に努める必要があると考えます。正解のない課題への取り組みは、学生自身が考え、調べ、演習課題に取り組む必要があり、学生自身の中で意味づけ・消化できるかどうかが重要なため、学生が納得・理解できるよう、意識して問いかけや質問をしたいと思います。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	生活健康論				
担 当 者	谷口由佳				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.6	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価調査へのご協力ありがとうございました。</p> <p>授業では、皆さん自身の生活体験から「生活の中の健康」をあらためて見つめ直すことを通し、生活観や健康観についての考えを深めていくことを目指しました。最終レポートでは、皆さんが一生懸命考察したことが見て取れ、真剣に学習に取り組んでくれた成果だと嬉しく感じています。今後も、この科目で学んだことを基盤に、生活概念に基づく看護の基本となる知識を身につけていってほしいと願います。</p> <p>また、毎回のアンケートでは、皆さんの学びをいつも楽しく読ませていただきました。皆さんの言葉は、次の授業に向かう私のエネルギーにもなりました。皆さんからいただいた貴重な意見を今後を生かし、授業内容の精選や授業方法の検討などに取り組んでいきたいと思えます。後期の老年看護学概論でまたお会いできることを楽しみにしています。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	看護対象論Ⅲ（老年）				
担 当 者	谷口由佳				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.5	4.7	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価調査へのご協力、ありがとうございました。</p> <p>この授業は、老年看護の対象となる「高齢者」を高齢者の立場から深く理解することをねらいとしています。一大イベントとなった「地域高齢者との語らい」では、お招きした方々を丁寧にお出迎えし、また感謝の気持ちを込めた色紙の作成など、ゲストの方々はとても喜んでおられました。私一人でゲストの方々のおもてなしは不可能なことでしたので、皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。</p> <p>皆さんからいただいた貴重な意見を今後にかし、授業内容の精選や授業方法の検討など取り組んでいきたいと思っております。後期の老年援助論でまたお会いできることを楽しみにしています。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	看護対象論V				
担 当 者	横山利枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.3	4.1	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>子どもの特徴は、成長発達のプロセスにあり自らの持つ力と環境とのかかわりの中で発達課題を達成し、常に変化するということにあります。各発達段階にある子どもの成長発達の特徴を理解し、子どもの持つ力と健やかな成長発達を促すために必要な看護の役割について学んでほしいと思います。また、小児期にある子どもに特徴的な症状について学び、子どもの健康状態をアセスメントするために必要な知識を理解してほしいと思います。</p> <p>授業は、事前課題をもとに理解を深められるように進め受け身ではなく主体的に取り組めるよう工夫したいと思います。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	小児援助論				
担 当 者	横山利枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.4	4.1	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>小児各期の特徴を踏まえ、健康問題・障害を持つ小児と家族の特性を理解し、病期や発達段階をふまえた看護を実践するために必要な基礎的能力を身につけてほしいと思います。</p> <p>具体的には、健康問題・障害のある小児と家族をアセスメントし、小児と家族の持つ力を最大限に発揮できるような看護を考え計画し、それに基づいた小児への基本的な看護技術を身につけ実習につながるようにと考えています。</p>					



## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	公衆衛生看護展開論Ⅱ				
担 当 者	伊東愛				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.9	4.8	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>本科目は網羅すべき内容が多く、例年、学生にとっては負担感があるようだったが、今年度、どの項目も学科平均以上の評価となった。国家試験対策を含めて授業展開を行ったが、「記憶に定着しやすい」「しっかり学習できた」とのコメントがあり、次年度も同様に授業展開を行っていく。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	公衆衛生看護展開論演習Ⅱ				
担 当 者	伊東愛				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.9	4.8	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>本科目は他の科目と重複する内容は除き、限られた時間内で、保健師として身に着けるべき技術を絞って演習を行っている。ボリュームのある自己学習課題があるため、早めの課題提示を行い、学生負担を軽減できるよう努めている。今年度、どの項目も学科平均以上の評価となった。「他の学生の意見も聞きながら支援を考えられた」「しっかり学ぶことができた」とのコメントがあり、次年度も同様に授業展開を行っていく。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	教育社会学				
担 当 者	伴仲謙欣				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.5	5	4.9	5	5	
学生へのメッセージ					
<p>履修生のみなさん、授業お疲れ様でした。そして、授業評価にご協力していただき、ありがとうございました。</p> <p>この科目は教職課程科目ですので、通常の看護過程に加えた授業で大変だったことと思います。さらにこの授業は、入学していきなり「教える」⇔「教えられる」という立場を共に経験する内容ですので、チャレンジングだったかもしれません。しかし、みんなが最後まで主体的にチームにコミットした結果、とても前向きな授業になったと思います。よくがんばりました！楽しかったです。</p> <p>どうせ同じ授業を受けるなら、少しでも前向きに捉えて取り組む方が結果も良くなるはずです。教職課程の履修は忙しいと思いますが、他の授業でも主体性をもって夢の実現のためにがんばってください。応援しています。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	看護教育論				
担 当 者	十九百 君子 阿児 馨 中村由果理				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.3	4.3	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、看護教育の構造を明らかにし、看護基礎教育と継続教育の現状と課題をふまえ障害学習体系における看護教育の意義と方法を学ぶ。さらに看護教育学として確立することへの将来展望について考察することをねらいとしています。</p> <p>授業評価の自由記載欄に記述があったように「難しかった」ですね。</p> <p>授業は、看護教育の歴史を通して、看護教育の歴史、制度の歴史の変遷や経緯、いろいろな言葉の中に含まれる意味や先人達の思い、自分達が経験した臨地実習での学びの意味、看護専門職として求められるもの等、授業内容の幅が広く授業内容の精選と授業方法の工夫が必要だと感じています。今年度の結果を次年度に活かしたいと考えています。</p> <p>これからは自己の経験を通して、看護を学び続ける者として、看護を実践する者として 看護とは何か・自分がどうありたいかを考え学びに変えて進んでほしいと願っています。</p> <p>最後になりましたが、授業評価のご協力、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">科目責任者：十九百 君子</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	基本看護技術Ⅱ				
担 当 者	十九百君子、藤原桜、黒野利佐子、中村由果理、武士由美、柴田しおり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.5	4.5	4.54.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、診療のプロセスを概観し、診療における看護師の役割を理解し、看護の対象に行われる医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の知識と方法を修得することをねらいとしています。</p> <p>皆さんの授業評価から、皆さん自身が授業に意欲的に参加していたことは事前学習記録やリフレクションの記録物からもとてもよくわかりました。技術練習も集中して一人ひとりが取り組んでいました。</p> <p>授業方法については、演習時の教員間の連携や演習方法の意図の説明等、細かく教員間で調整したり説明する必要があると考えています。自由記載内容から、例えば患者役に徹して患者の心理を学べると考え設定した場面が、逆に援助の細かい内容を学ぶことができなかったなど、皆さんが学びやすくするために設定場面の意図・振り返りをどのようにして知識の偏りをどうするか等、具体的に検討する必要があると思います。</p> <p>今年度の授業評価を真摯に受け止め、次年度の授業に活かしたいと考えます。最後になりましたが、授業評価のご協力、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">科目責任者：十九百 君子</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	情報基礎				
担 当 者	室崎友輔				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.2	4.2	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>ICT の知識や技術、そしてリテラシーが求められる社会です。AI の進化もあり、さらに必要性は高まってきます。授業で学んだ知識や技術にとどまることなく、新しい技術に関心や興味をもって、ICT や AI を活用できる専門医療人を目指してください。</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	基本看護技術Ⅱ				
担 当 者	十九百 君子 ・ 柴田しおり ・ 藤原桜 ・ 黒野利佐子 ・ 中村由果理 ・ 武士由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.5	4.5	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、診療のプロセスを概観し、診療における看護師の役割を理解し、看護の対象に行われる医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の知識と方法を修得することをねらいとしています。</p> <p>皆さんの授業評価から、皆さん自身が授業に意欲的に参加していたことは事前学習記録やリフレクションの記録物からもとてもよくわかりました。また、技術練習にも集中して一人ひとりが取り組んでいたと思います。</p> <p>授業評価結果から、演習時の教員間の連携を進行内容だけでなく教育内容等もふまえて丁寧に調整することや、演習方法の意図を皆さんに丁寧に説明する必要があると考えています。例えば、演習を通して、患者役に徹して患者の心理を学べると設定した場面が、皆さん自身にとっては援助の細かい内容を学ぶことができなかった。また、読めるように記載しているつもりが皆さんにとっては読めない状況や読みにくい状況が生じていた等、自由記載内容から明らかになりました。</p> <p>皆さんが学ぶための設定場面の意図・振り返りをどうするか等を含め、具体的に教員間の連携や授業方法を見直し改善策を明らかにし次年度に活かしたいと思います。</p> <p>今年度の授業評価を真摯に受け止め、次年度の授業に活かしたいと考えます。</p> <p>最後になりましたが、授業評価のご協力、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">担当者：十九百 君子</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	看護教育論				
担 当 者	十九百君子・阿児馨・中村由果理				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.3	4.3	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、看護教育の構造を明らかにし、看護基礎教育と継続教育の現状と課題をふまえ障害学習体系における看護教育の意義と方法を学ぶ。さらに看護教育学として確立することへの将来展望について考察することをねらいとしています。</p> <p>授業評価の自由記載欄に記述があったように「難しかった」ですね。</p> <p>授業は、看護教育の歴史を通して、看護教育の歴史、制度の歴史の変遷や経緯、いろいろな言葉の中に含まれる意味や先人達の思い、自分達が経験した臨地実習での学びの意味、看護専門職として求められるもの、展望等、授業内容の幅が広く授業内容の精選と授業方法の工夫が必要だと感じています。今年度の結果を次年度に活かしたいと考えています。</p> <p>これからは自己の経験を通して、看護を学び続ける者として、看護を実践する者として 看護とは何か・自分がどうありたいかを考え、学びに変えて進んでほしいと願っています。</p> <p>最後になりましたが、授業評価のご協力、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">授業担当者：十九百 君子</p>					



## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	基本看護技術Ⅱ				
担 当 者	十九百 君子 柴田しおり 藤原桜 黒野利佐子 中村由果理 武士由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.5	4.5	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、診療のプロセスを概観し、診療における看護師の役割を理解し、看護の対象に行われる医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の知識と方法を修得することをねらいとしています。</p> <p>皆さんの授業評価から、皆さん自身が授業に意欲的に参加していたことは事前学習記録やリフレクションの記録物からもとてもよくわかりました。また、技術練習にも集中して一人ひとりが取り組んでいたと思います。</p> <p>授業評価結果から、演習時の教員間の連携を進行内容だけでなく授業内容等もふまえ、丁寧に調整することや、演習方法の意図を皆さんに丁寧に説明する必要があると感じました。例えば、演習を通して、患者役に徹して患者の心理を学べると設定した場面が、皆さん自身にとっては援助の細かい内容を学ぶことができなかった。また、読めるように記載している内容が皆さんにとっては見にくい状況や読みにくい状況が生じていた等、自由記載内容からわかりました。</p> <p>皆さんが学ぶための演習設定場面の意図・内容・振り返りをどうするか等を含め、具体的に教員間の連携や授業方法を見直し改善策を明らかにし次年度に活かしたいと思います。</p> <p>今年度の授業評価を真摯に受け止め、次年度の授業に活かしたいと考えます。</p> <p>最後になりましたが、授業評価のご協力、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">授業担当者：十九百 君子</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	異文化看護				
担 当 者	黒野利佐子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4	4.5	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>今年も選択科目としては多くの学生さん（38名）が受講してくださってありがとうございました。</p> <p>これまで皆さんは病気や障碍と言うと主に身体的側面からの分析を徹底して学習してきたと思います。</p> <p>世界の保健事情や健康問題について社会・文化的、政治・経済的な側面からも視点を変えて分析し、改めて病気や障碍を構築する要因の中にそれらがどのように複雑に関係しているのか考えていただくこと。そしてその視点をもっともう一度日本の臨床の現場を振り返って見ると、これまで考えてもいなかった視点で 私たちの健康と病気 障碍を見る目が変わってみることができる、というのが この授業の大きな目的です。ですから授業の最後の二コマで自分が興味のある世界の保健・健康課題や医療の課題や話題について そうした切り口で調べて発表していただく その過程を大切にしたいと思っています。</p> <p>元々この授業は受講生 25 名程度を想定していました。しかし最近受講者数が増え、この二コマで発表というのが大変厳しい状況となっています。皆さんが一生懸命に調べてくれればくれるだけ、どうしても 90 分×二コマの枠の中に納まりきらず、少し授業が延長してしまう。発表までの過程についても 皆さんにはできるだけ公平に発表までテーマの設定、資料集め、そして発表の内容まで個別指導を行いたいのですが、人数が多くなると ダメ出しを食らってすぐ気がくじけてしまう人、却って発奮されて何度もチェックを重ねながら工夫を加えてくる人、すべてをフォローして杭子が難しくなります。発表まで最低二回は面接の時間を取っていますが、面接に臨む際にどこまで準備してくるか、あなたたちの努力によっても私の指導内容も変わります。成績評価は教員とあなたの協働、努力の結果です。自己省察なしに教える側だけに責任を擦り付けるようなことはなさないでくださいね。</p> <p>最後に この授業を受けて多くの方が意欲的に授業に参加し、学びを深めてくださったことに感謝をいたします。 私も皆さんと世界のいろいろな健康問題や保健の課題について認識を深め、考察を深める作業とても楽しかったです。ありがとうございました。</p> <p>今も世界政治は大きく揺れて、主流メディアでは一方的な正義の報道が流れています。イス</p>					

ラエルの砲撃を繰り返され、医療、食料、電気、そして水さえも供給を止められ、退路を断たれた百万を超えるパレスチナ人、75年以上イスラエルによって圧政を受けてきた歴史があるのですが、ハマスによる「テロ」という言葉のもとに欧米はパレスチナを一方的に批判しています。近い将来でいいです。歴史を違う角度から学んでもっと深掘して、自分で物事の真相を掘り下げる姿勢を大切にしてくださいね。

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	基本看護技術Ⅱ				
担 当 者	十九百君子 柴田しおり 藤原桜 黒野利佐子 中村由果理 武士由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.5	4.5	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、診療のプロセスを概観し、診療における看護師の役割を理解し、看護の対象に行われる医学的検査・治療に伴う基本的な援助技術の知識と方法を修得することをねらいとしています。</p> <p>皆さん自身が授業に意欲的に参加していたことは事前学習記録やリフレクションの記録物からもとてもよくわかりました。また、技術練習にも集中して一人ひとり取り組んでいたと思います。</p> <p>授業評価結果から、演習時の教員間の連携を進行内容だけでなく授業内容等もふまえ、丁寧に調整することや、演習方法の意図を皆さんに丁寧に説明する必要があると感じました。例えば、演習を通して、患者役に徹して患者の心理を学べると設定した場面が、皆さん自身にとっては援助の細かい内容を学ぶことができなかった。また、読めるように記載しているつもりが皆さんにとっては見にくいや読みにくい状況が生じていた等、自由記載内容からわかりました。</p> <p>皆さんが学ぶための設定場面の意図・学修内容をどう確認するか等を含め、教員間の連携や授業方法を見直し改善策を明らかにし次年度に活かしたいと思います。</p> <p>今年度の授業評価を真摯に受け止め、次年度の授業に活かしたいと考えます。</p> <p>最後になりましたが、授業評価のご協力、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">授業担当者：十九百 君子</p>					

## 学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	医療安全				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.1	4.1	4	4	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、医療安全について具体的・実践的な講義とするため、臨床の現場でご活躍中の先生方にも担当に加わっていただいております。授業は対面で行うのが大学の基本方針ですが学外講師のご都合もあり、本授業ではオンデマンドによる動画を視聴する非対面形式も取り入れています。</p> <p>「(一部が対面授業だったが全て) 遠隔授業でもよい、遠隔授業がよい」という趣旨のコメントをいただきました。対面で授業を行う際は、非対面にはない利点を生かした授業を心がけたいと思います。</p> <p>「遠隔授業なら試験はレポートが妥当」という趣旨のコメントをいただきました。対面・非対面授業に関わらず定期試験は筆記試験が基本であり、非対面授業の成績評価はレポート試験で行うべきという考え方に合理的な理由はないと考えます。しかしながら、一部授業が動画視聴であることに留意し、修得度を適切に測れる試験であるよう、試験方式や試験問題、評価方法等については今後も検討していきたいと思います。</p> <p>「遠隔授業のレジュメコピーを事前に行って欲しかった」とのコメントをいただきました。動画の視聴期間前から PDF 資料を manaba で公開していましたが、対面授業と同様に用紙（紙媒体）での提供を希望と理解しました。全履修生に事前に用紙で提供するには、提供場所や日時（期間）、期間中の用紙の管理、無駄にならないよう必要部数の把握など、いくつかの課題があります。対応可能かどうか、関係部署と検討してみます。</p> <p>（伊藤 洋志）</p>					